

研究資料 (Research material)

男女群島の鳥類

関 伸一^{1)*}

Avifauna of the Danjo Islands, located in the north-eastern part of the East China Sea.

Shin-Ichi SEKI^{1)*}

Abstract

Avian observation records in the Danjo Islands during the 5 short stays and also those reported by previous studies were listed to reveal the seasonal occurrence pattern of each species. During the survey, 75 species were observed; along with the species reported in previous studies, 179 species have been listed. Among these species, nesting was confirmed in only 6 species, and another 12 species have been observed through the breeding season or have shown some signs of breeding. Because the Danjo Islands are small offshore islands, its breeding bird community lacks some widespread species (e.g., *Cettia diphone* and *Carduelis sinica*) but includes some island-specific species (e.g., *Erithacus komadori* and *Locustella pleskei*); this has led to the formation of a simple and unique species composition. Many migratory species were constantly recorded during the spring migration period, suggesting that the route crossing these islands was their usual passage and that these were not accidental visits. However, I was unable to evaluate the importance of this offshore route because of a lack of the bird abundance data.

Key words : avifauna, Danjo Islands, East China Sea, island specifics, offshore islet

要旨

東シナ海北東部の男女群島でそれぞれ異なる季節に5回の鳥類調査を行って観察種を記載するとともに、これまで文献に記載されている記録の整理を行い、男女群島における鳥類の観察記録をリストとしてとりまとめた。現地調査では75種が観察され、これまでの記録と併せて179種となった。このうち確実な繁殖記録があるのは6種のみで、繁殖している可能性のある種を含めても18種であった。男女群島は、他の地域とは地理的に隔離されていることに加えて面積が限られているために、島嶼環境に適応したアカヒゲ、ウチヤマセンニュウなどの種が分布する一方で、ウゲイスやカワラヒワなど面積の大きな島では広域的に分布する種の一部が欠落し、単純で特異な繁殖鳥類群集が生じたと推測される。渡り鳥については、個体数に関する記録が少ないため、渡りの中継地としてのこの地域の重要性を評価することは困難であった。しかし、春期の調査において高い割合で記録される渡り鳥があり、これらの種では男女群島を経由する渡りのルートを利用する個体が恒常的に存在すると推測された。

キーワード：鳥類相、男女群島、東シナ海、島嶼性の高い種、小面積の離島

はじめに

男女群島は長崎県五島列島の南南西約70 km、鹿児島県阿久根市の西約170 kmの東シナ海に位置する島嶼群で、男島・クロキ島・寄島・ハナグリ島・女島の5島が南北約10 kmにわたって直線状に連なっている (Fig1)。男女群島の総面積は約4.7 km²にすぎないが、比較的面積の大きい男島と女島では亜熱帯性の植物を含む森林が発達しており、貴重な植物群落として国指定の天然記念物(天然保護区域)に、また、国有林野事業においては

男女群島植物群落保護林となっている。

鳥類の生息地としての男女群島は、他の陸地から大きく離れた、捕食者の少ない無人島群であるため、オオミズナギドリ *Calonectris leucomelas* やウミネコ *Larus crassirostris* など海鳥の繁殖地として重要な地域であり、国指定男女群島鳥獣保護区(集団繁殖地)に指定されている。また、男女群島では、日本列島では記録が希な大陸系の種・亜種を含む多様な渡り鳥が記録されており、朝鮮半島から西日本を経由して東南アジアにいたる南北

原稿受付：平成22年7月8日 Received 8 July 2010 原稿受理：平成22年11月29日 Accepted 29 November 2010

1) 森林総合研究所関西支所 Kansai Research Center, Forestry and Forest Products Research Institute

* 森林総合研究所関西支所 〒612-0855 京都市伏見区桃山町永井久太郎68 Kansai Research Center, Forestry and Forest Products Research Institute (FFPRI), Nagaikyutaro-68, Momoyama, Fushimi, Kyoto, 612-0855 Japan, ; e-mail: seki@affrc.go.jp

の渡りの中継地として重要な地域であることが明らかになっている(北脇, 1988)。それに加えて、近年では東シナ海を横断してユーラシア大陸と日本列島とを行き来する東西の渡りのコースの重要性も示唆されており(植田ら, 2009)、男女群島の中継地としての重要性はこれまで考えられていた以上に高い可能性がある。さらに、男女群島は東海大陸棚の上に位置し、九州側の陸棚とは水深 500 m を越す五島海谷および男女海盆によって隔てられており、地史的にも長期間にわたって九州本土とは隔離された状態にあると推測される(西村, 1973)。そのため、繁殖期の陸島の種組成は九州本土や五島列島と比べると単純なものとなっている一方で、島嶼環境を選好するカラスバト *Columba janthina* やウチヤマセンニュウ *Locustella pleskei* などの種や、対馬海流の影響で温暖であるために琉球列島に分布の中心を持つ種であるアカヒゲ *Erithacus komadori* が記録される特異な地域となっている(関, 2006)。

男女群島の鳥類については 1970 年代以降断続的に調査が行われ、複数の調査報告書や観察記録などがあるが、それらの散在する記録はこれまで横断的に整理されたことがなかった。そのため、それぞれの種の男女群島で記録の有無、記録頻度やその季節変動などについて検討するには、個別の記録を確認するしかなかった。また、過去の調査は男女群島への上陸が比較的容易な春期に集中しており、この地域の繁殖種に関する情報は不足している。本研究では、2006 年以降に行った春・夏・秋・冬の各季節を含む 5 回の調査における記録を整理するとともに、すでに報告書などに記載されているそれ以前の 17 回の上陸調査での観察記録と併せて、男女群島の鳥類観察記録をリストとしてとりまとめ、繁殖している可

能性の高い種と渡りなどで一時的に滞在する種の構成について考察した。

調査地と方法

(1) 調査地

男女群島の 5 島のうち、比較的面積の大きい男島および女島上部では、海食崖に囲まれた標高 100 m 以上の地域が台地状の緩傾斜地となっており、モクダチバナ *Ardisia sieboldii* やタブノキ *Machilus thunbergii* などからなる森林が発達している。他の 3 島はいずれも面積 0.25 km² 以下の岩礁で、島のほとんどは草原状の群落に覆われ、樹木の生育地は少ない(山口・江島, 1973)。周囲を流れる暖流の影響を受けて気候は温暖で、九州本土の同緯度地域に比べると年平均気温で約 1 度高く(17.6℃; 外山ら, 1968)、マルバニッケイ *Cinnamomum daphnoides*、オオタニワタリ *Asplenium anitiquum*、クワズイモ *Alocasia odora*、アコウ *Ficus superba*、ビロウ *Livistona chinensis* などの亜熱帯性の植物が生育する(山口・江島, 1973)。

(2) 方法

2006 年 5 月 5～7 日に男島東風泊および女島中部・南部、同年 5 月 27～28 日に女島全域、2008 年 10 月 20～22 日に男島真浦・東風泊・南風泊、2010 年 6 月 7～9 日に男島南風泊・東風泊・真浦に上陸した際に観察された種について、観察日・観察された島・観察状況を種ごとに記載した。そのほか、九州森林管理局から 2009 年 12 月 3 日 9 時 26 分～13 時 26 分に女島中部に設置された IC レコーダーの音声記録 4 時間分の提供を受け、鳴き声を聞き取り記載した。これまで記録が少ない種や観察頻度の低い季節の記録、繁殖していると推測される種の記録については、個体数や行動についてもできる限り記述した。

これらの記録と過去の報告書などの記載を整理し、種ごと季節別の記録状況を表にまとめた。過去 17 回既存調査および本研究での 5 回の調査における調査日程、調査地域、調査者、引用文献は Table 1 に示す。季節の区分は 3～5 月を春期、6～8 月を夏期、9～11 月を秋期、12～2 月を冬期とした。また、繁殖に関する具体的な記録(営巣や巣立ち後間もない個体の観察など)の有無と記録された島をそれぞれ記号で示した。観察された亜種についての記述があるものについては亜種名を付記した。北九州野鳥の会によって行われた 1971 年 4 月 30 日～5 月 3 日、1972 年 5 月 2～5 日、および 1975 年 4 月 30 日～5 月 4 日の調査については北脇(1988)および北脇ら(1989)と市田(1978)とで提示されている記録種の間の一部で不整合が認められた。異なる調査参加メンバーの観察種を記載した可能性もあるが、ここでは、当該調査の参加メンバーであった北脇英雄氏への聞き取りをもとに、北脇(1988)の記録種のみを採用した。なお、文献の採否により、当該種の記録頻度は変化するが、男

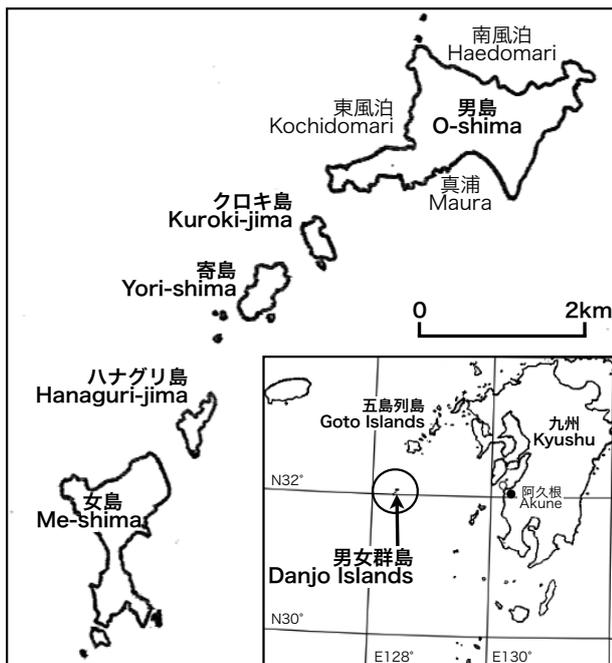


Fig. 1. 調査地の位置と島の配置。
Location and configuration of the Danjo Islands.

女群島の総記録種数が変化することはなかった。なお、本論文における鳥類の和名および学名とその配列は基本的に日本鳥学会 (2000) にしたがった。

結果

(1) 観察種

春・夏・秋・冬の各季節を含む 5 回の調査で観察されたのは以下の 75 種であった。男女群島で新たに記録された 6 種も含まれるが、いずれも日本列島周辺の島嶼でも記録される可能性の高い、広域移動する種であった。また、2006 年 5 月 7 日の女島における調査では、これらの種以外に、カンムリカイツブリ属 *Podiceps* の小型種、マガン属 *Anser*、タシギ属 *Gallinago* の死体が観察されたが、損傷が激しく、形態から種を同定することは困難であった (梶田学氏, 私信)。

オオミズナギドリ *Calonectris leucomelas*

2006.5.5-6, 男島; 2006.5.7, 27-28, 女島; 2008.10.20-22, 男島; 2010.6.7-9, 男島; 2010.6.7-8, 女島沖 (夜間)。

繁殖期のすべての調査において周辺海域では採食中の個体が多く見られ、巣穴付近に新しい糞や羽毛が確認された。夜間は巣穴に戻る成鳥が観察され、島の上空で多数の鳴き声が聞かれる事が多かったが、2010 年 6 月の調査では巣に帰還する個体の鳴き声が日没後にはほとんど聞かれず、夜明け前にまばらに聞かれる程度であった。このため、この時期は、繁殖期の中でも一時的に帰巣個体が希となる産卵直前の時期に相当した可能性がある。いずれの調査でも、口に釣り針が引っかかり釣り糸が樹木にからんだために死亡したと見られる個体が複数確認された。

カツオドリ *Sula leucogaster*

2008.10.20-22, 男島; 2010.6.7-9, 男島・女島・寄島。2008 年の調査では男島南風泊の東部と西部、2010 年の調査では男島南風泊東部と西部、東風泊東部、黒木島西部、寄島南部の 4 カ所に集団ねぐらが見られた。2008 年に最も個体数の多かった南風泊東部のねぐらから飛び立った個体数は 113 羽、2010 年の調査で最も個体数の多かった寄島のねぐらから飛び立った個体数は 93 羽をカウントした (いずれも写真によりカウント、飛び立たなかった個体と画角外の個体も少なくなかった)。いずれの集合地点も巣を作るほどの岩棚や草本のある場所がほとんどなく、雛の姿が確認されたこともないため、営巣地ではないと推測された。

ミゾゴイ *Gorsachius gosgasi*

2006.5.5-6, 男島東風泊; 2006.5.7, 女島北部。いずれもタブ・モクダチバナの優占する森林内で 1 羽ずつ観察された。

ゴイサギ *Nycticorax nycticorax*

2006.5.7, 女島; 2010.6.8, 男島東風泊で若鳥 1 羽。

ササゴイ *Butorides striatus*

2006.5.6, 男島東風泊。

アカガシラサギ *Ardeola bacchus*

2006.5.6, 男島東風泊で死亡個体。

アマサギ *Bubulcus ibis*

2006.5.5, 男島; 2006.5.7, 27-28, 女島; 2010.6.7, 男島南風泊で死亡個体。

ダイサギ *Egretta alba*

2006.5.28, 女島。

チュウサギ *E. intermedia*

2006.5.5, 男島; 2006.5.7, 女島; 2010.6.8, 男島東風泊・女島。

コサギ *E. garzetta*

2006.5.7, 女島; 2006.5.28, 女島; 2008.10.21, 男島東風泊; 2010.6.8, 男島東風泊。

カラシラサギ *E. eulophotes*

2006.5.7, 女島で死亡個体を確認 (梶田学氏, 私信)。

クロサギ *E. sacra*

2006.5.5, 男島東風泊; 2008.10.20, 男島真浦で 1 羽。

アオサギ *Ardea cinerea*

2006.5.5-6, 男島東風泊; 2006.5.7, 女島。

コガモ *Anas crecca*

2008.10.21, 男島東風泊で 1 羽。

ミサゴ *Pandion haliaetus*

2006.5.5-6, 男島; 2006.5.7, 27-28, 女島; 2008.10.20-22, 男島; 2010.6.7-9, 男島。

2010.6.8 の男島東風泊では、つがいと推測される 2 羽がしばらく一緒に飛んでいるのが見られ、付近の岩棚にある巣で雛 1 羽を見たとの瀬渡し船船長からの情報があった。

ハチクマ *Pernis apivorus*

2008.10.21, 男島東風泊。

トビ *Milvus migrans*

2006.5.5-6, 男島; 2006.5.7, 27-28, 女島; 2008.10.20-22, 男島真浦・南風泊; 2009.12.3, 女島での録音から確認; 2010.6.8-9, 男島; 2010.6.8, 女島。

オジロワシ *Haliaeetus albicilla*

2010.6.7, 男島南風泊, 若鳥 1 羽がしばらく岩峰上空を旋回した後に男島の南側に飛去。

オオタカ *Accipiter gentilis*

2008.10.20-21, 男島真浦・東風泊でいずれも 1 羽。

ハイタカ *A. nisus*

2008.10.21, 男島東風泊。

ノスリ *Buteo buteo*

2006.5.5, 男島東風泊; 2008.10.21, 男島東風泊。

ハヤブサ *Falco peregrinus*

- 2006.5.5, 男島東風泊; 2006.5.27, 女島;
2008.10.20-22, 男島真浦・東風泊・南風泊.
- チゴハヤブサ *F. subbuteo*
2008.10.21, 男島東風泊, 1羽.
- チョウゲンボウ *F. tinnunculus*
2008.10.21, 男島東風泊, 1羽.
- シロハラクイナ *Amaurornis phoenicurus*
2006.5.7, 女島中央やせ尾根で1羽.
- メダイチドリ *Charadrius mongolus*
2006.5.7, 女島.
- トウネン *Calidris ruficollis*
2006.5.7, 女島.
- ウズラシギ *C. acuminata*
2006.5.7, 女島.
- クサシギ *Tringa ochropus*
2006.5.7, 女島.
- イソシギ *Actitis hypoleucos*
2006.5.7, 女島; 2008.10.20, 男島真浦.
- チュウシャクシギ *Numenius phaeopus*
2006.5.7, 女島.
- ヤマシギ *Scolopax rusticola*
2008.10.21, 男島東風泊, 1羽.
- ツバメチドリ *Glareola maldivarum*
2006.5.7, 女島ヘリポート上空で1羽(小倉豪氏, 私信).
- ウミネコ *Larus crassirostris*
2006.5.5-6, 男島; 2006.5.7, 女島; 2006.5.27-28, 女島; 2010.6.7-9, 男島・女島.
2010年の調査では男女群島全域の沿岸で多数の個体を観察した。女島南岸でコロニーを確認した。6月9日5時30分にコロニーとなっている斜面を撮影した写真では、ウミネコと推測される約280の白色の物体がカウントされた。
- カンムリウミスズメ *Synthliboramphus wumizusume*
2006.5.7, 男島真浦海上で波間を飛行中の4羽以上を観察.
- カラスバト *Columba janthina*
2006.5.5-6, 男島東風泊; 2006.5.7, 女島; 2006.5.27-28, 女島北部; 2008.10.21, 男島真浦1羽; 2010.6.7-9, 男島南風泊・東風泊・真浦.
目撃頻度は調査時期によって差がある。2010年にはいずれの調査日にもとりわけ頻繁に観察され、タブノキの結実木で複数個体が観察される例が多かった。各個体が広範囲を飛行していたので遭遇個体の総数は不明であるが、同時に観察された最大個体数は7羽で、2010.6.8の東風泊上部の森林においてタブノキの結実木で4羽が同時に採食しているのが見られ、別の3カ所で鳴き声が聞かれた。2006.5.27-28の女島でも多く見られた。
- キジバト *Streptopelia orientalis*
2008.10.21, 男島東風泊; 2009.12.3, 女島での録音から確認.
- ジュウイチ *Cuculus fugax*
2006.5.28, 女島北部.
- ツツドリ *C. saturatus*
2006.5.27-28, 女島北部.
- ホトトギス *C. poliocephalus*
2006.5.27-28, 女島; 2010.6.7, 男島南風泊でおそらく1羽.
- ブッポウソウ *Eurystomus orientalis*
2006.5.28, 女島北部で1羽.
- ツバメ *Hirundo rustica*
2006.5.5-6, 男島; 2006.5.7, 女島; 2006.5.27-28, 女島.
- イワツバメ *Delichon urbica*
2006.5.5-6, 男島; 2006.5.7, 女島.
- ツメナガセキレイ *Motacilla flava*
2006.5.7, 女島; 2008.10.21-22, 男島東風泊・南風泊.
- キセキレイ *M. cinerea*
2006.5.5-6, 男島; 2006.5.7, 女島; 2006.5.27, 女島; 2008.10.20, 男島; 2010.6.8, 男島東風泊.
- ハクセキレイ *M. alba*
2006.5.5-6, 男島; 2006.5.7, 女島; 2008.10.20, 男島.
- マミジロタヒバリ *Anthus novaeseelandiae*
2006.5.7, 女島ヘリポートで1羽(小倉豪氏, 私信).
- ビンズイ *A. hodgsoni*
2006.5.7, 女島.
- タヒバリ *A. spinoletta*
2006.5.7, 女島.
- サンショウクイ *Pericrocotus divaricatus*
2006.5.5-6, 男島東風泊; 2006.5.7, 女島; 2006.5.27-28, 女島; 2010.6.8-9, 男島東風泊・真浦.
- ヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis*
2006.5.5-6, 男島東風泊; 2006.5.7, 女島; 2006.5.27-28, 女島; 2009.12.3, 女島での録音から確認. 2006.5.27-28の女島での観察頻度は低く延べ10羽未満、2010.6.7-9の男島では全く確認できなかった。繁殖しているかどうかは不明である。
- アカモズ *Lanius cristatus*
2006.5.7, 女島で亜種シマアカモズ *L. c. lucionensis* を標識放鳥.
- アカヒゲ *Erithacus komadori*
2006.5.5-6, 男島東風泊; 2006.5.7, 女島北部; 2006.5.27-28, 女島北部; 2008.10.20-22, 男島真浦・東風泊・南風泊; 2009.12.3, 女島での録音から地鳴きを確認; 2010.6.7-9, 男島南風泊・東風泊・真浦の森林内で観察.
2008年には真浦の7カ所および南風泊の4カ所で

鳴き声または姿が確認されたが、確認された個体はいずれも単独であった。2010年には東風泊北部の9カ所、真浦の5カ所および南風泊の2カ所で鳴き声または姿が確認され、そのうち2カ所で雌雄がともに行動しているのが観察され、また、別の2カ所では雌が連続的に警戒声を発して同じ地点を飛び回るといふ巣の付近でよく見られる行動が観察されたが、いずれも巣は発見できなかった。録音から地鳴きを確認された2009年12月の調査では、女島中部の作業道および男島真浦海岸近くで各1個体(性不明)が観察され(九州森林管理局, 2010; 中村輝司氏, 私信)、初めて冬期の生息が確認された。アカヒゲの繁殖地としては隣接するトカラ列島で、ほぼすべての個体が夏鳥であるのに対して、約270 km北西に位置する男女群島で冬期の記録が得られたことは注目に値する。ただし、翌年同時期の女島では全く確認できなかったとの情報がある(中村輝司氏, 私信)。2006年の調査におけるアカヒゲの生息状況については関(2009)に記載されている。

ルリビタキ *Tarsiger cyanurus*

2006.5.7, 女島で羽毛拾得。

ジョウビタキ *Phoenicurus auroreus*

2008.10.20-22, 男島; 2009.12.3, 女島で録音から地鳴きを確認(地鳴きの類似しているルリビタキとの周波数帯の違いをソナグラムにより識別)。

ノビタキ *Saxicola torquata*

2006.5.7, 女島。

イソヒヨドリ *Monticola solitarius*

2006.5.5-6, 男島東風泊; 2006.5.7, 女島; 2006.5.27, 女島; 2008.10.21-22, 男島; 2009.12.3, 女島での録音から確認; 2010.6.7-9, 男島および女島。
2010年には海岸や岩場などでさえずる個体が多く観察され、2010.6.7には節足動物をくわえて運び去る雄が見られた。

トラツグミ *Zoothera dauma*

2006.5.5-6, 男島で羽毛拾得。

クロツグミ *Turdus cardis*

2006.5.5-6, 男島で死体を確認(梶田学氏, 私信)。

アカハラ *T. chrysolais*

200.5.7, 女島。

シロハラ *T. pallidus*

2009.12.3, 女島での録音から地鳴きを確認。シロハラに特徴的な地鳴きが複数回記録されていたが、録音に多数記録されていたツグミ類の地鳴きには他の種も含まれていた可能性がある。

ウグイス *Cettia diphone*

2006.5.7, 女島で地鳴きのみ; 2008.10.20, 男島; 2009.12.3, 女島での録音から確認。
2006.5.27-28 と 2010.6.7-9 には全く観察されてお

らず、繁殖しているのかどうか不明である。

ウチヤマセンニュー *Locustella pleskei*

2010.6.8-9, 男島。

東風泊のモクタチバナ林・タブノキ林の4カ所、および、真浦上部のタブノキ林の1カ所でさえずりが聞かれ、その内3カ所では姿も観察した。いずれも尾根に近い、樹高4 m未満の林であった。1970年および1972年に女島でシマセンニュー類の姿が目撃され、生息環境からウチヤマセンニューであろうと推測されて以来、男女群島では記録がなかった。

キマコムシクイ *Phylloscopus inornatus*

2006.5.7, 女島。

センダイムシクイ *Ph. coronatus*

2006.5.6, 男島。

サンコウチョウ *Terpsiphone atrocaudata*

2006.5.7, 女島南部。

シジュウカラ *Parus major*

2006.5.6, 男島東風泊で2羽; 2009.12.3, 女島で録音記録。

2006年男島では成鳥雌雄がともに行動しており、雄は餌を運んで飛び去った。

メジロ *Zosterops japonicus*

2006.5.5-7, 男島・女島; 2006.5.27-28, 女島; 2008.10.20-22, 男島; 2009.12.3, 女島での録音から確認; 2010.6.7-9, 男島。

いずれの調査日にも複数地点で鳴き声が聞かれたが、多くはない。春期の調査ではさえずりが聞かれたが、営巣は確認できず、巣立ち雛を含む家族群や成鳥が餌を運ぶ行動なども見られなかった。

シロハラホオジロ *Emberiza tristrami*

2006.5.7, 女島で1羽(小倉豪氏, 私信)。

コホオアカ *E. pusilla*

2006.5.7, 女島。

キマユホオジロ *E. chrysophrys*

2006.5.7, 女島。

アオジ *E. spodocephala*

2006.5.7, 女島で垂種シベリアアオジ *E. spodocephala* を標識放鳥; 2009.12.3, 女島での録音から地鳴きを確認(地鳴きの類似しているミヤマホオジロ *E. elegans*, クロジ *E. variabilis* との周波数帯の違いをソナグラムにより識別)。

アトリ *Fringilla montifringilla*

2008.10.20-21, 男島; 2009.12.3, 女島での録音から確認。

コウライウグイス *Oriolus chinensis*

2006.5.27, 女島灯台付近で1羽。

ハシブトガラス *Corvus macrorhynchos*

2006.5.5-6, 男島東風泊; 2006.5.7, 女島; 2006.5.27-28, 女島; 2009.12.3, 女島での録音から

確認; 2010.6.7-9, 男島 .

海岸近くでは 10 羽以上の群れが観察される事が多かったが、2010 年 6 月の調査では同時に 3 個体以上を観察したことはなかった。

(2) 鳥類記録のリスト

新たな記録と過去の報告の記載を整理した結果、男女群島で観察された種は 179 種となった (Table2)。北九州野鳥の会 (1971) および柿田 (1973) ではシマセンニュウ *Locustella ochotensis* の記録があるが、当時はウチヤマセンニュウをシマセンニュウの亜種 *L. ochotensis pleskei* とする説が広く採用されており (日本鳥学会, 1974)、この種群の確実な同定の根拠となるさえずりはいずれの記録でも確認されていないため、これらの記録がシマセンニュウであったのかウチヤマセンニュウであったのかは明らかではない (柿田, 1973; 北脇英雄氏, 私信)。本研究において繁殖期にあたる時期にウチヤマセンニュウの生息が確認されたこと、男女群島がシマセンニュウの典型的生息環境よりはウチヤマセンニュウの生息環境に類似していることから、ここではこれらの記録をウチヤマセンニュウに含めて記載した。また、亜種の分類およびその同定について議論のあるツメナガセキレイおよびハクセキレイでは、日本鳥学会 (2000) で採用されなかった亜種 (シベリアツメナガセキレイ *M. flava plexa* およびシベリアハクセキレイ *M. alba baicalensis*) が複数の文献に含まれていたが、ここでは文献に記載のある亜種名はすべて備考欄に列記した。このほか、文献中にはアオバト属の不明種 *Sphenurus* sp. の営巣記録と (柿田, 1973)、春期におけるメボソムシクイ属不明種 *Phylloscopus* sp. の複数の記録 (北脇, 1988) が見られたが、記録リストには含まなかった。コンヒタキ *Cinclidium leucurum* は 1997 年 5 月に 男女群島で捕獲事例があるとされるが (日本産鳥類記録委員会, 2003)、捕獲者や捕獲した島など記録の詳細が確認できなかったため、ここでは収録しなかった。また、航路上で記録されたアカアシチョウゲンボウ *Falco amurensis* (北脇, 1988) およびアカエリヒレアシギ *Phalaropus lobatus* (北脇ら, 1981) も記録に含まなかった。

繁殖記録が確認できたのはオオミズナギドリ、ミサゴ、ウミネコ、カンムリウミスズメ、アカヒゲおよびメジロの 6 種であった。メジロについては文献での繁殖の記載はないが、2003 年 5 月 3 日に抱卵斑の発達した雌 1 個体が捕獲された例があったため (関, 未発表)、確実な繁殖種とした。春期～夏期に、いずれの時期も 9 割以上の調査で記録された種はトビ、カラスバト、キセキレイ、イソヒヨドリ、ハシブトガラスの 5 種であった。

考察

(1) 男女群島における繁殖種

男女群島での記録のある 179 種のうち、6 種では文献などで繁殖が確認でき、5 種では確実な繁殖記録はないものの鳥類の一般的な繁殖期にあたる春期～夏期に高頻度で観察され、繁殖している可能性があるとして推測された。それ以外にも、観察頻度は低かったものの、餌を運ぶ行動や特定地点での継続的なさえずり行動などが観察されたウチヤマセンニュウとシジュウカラでは繁殖の可能性が疑われる。また、春期・夏期ともに記録がある種のうち、クロサギ、イソシギ、サンショウクイ、ヒヨドリ、アカコッコについては男女群島での繁殖の可能性を検討するには情報が不足している。カツオドリ、サギ類については春期と夏期に記録されているが、これらの種の繁殖に特徴的なコロニーが観察されたことはなく、繁殖している可能性は低いと推測された。

このように男女群島で繁殖している可能性のある種は、男女群島の北に位置する五島列島や東に位置する九州と比べて種数が少なく、共通性が低かった。例えば、五島列島では繁殖期に普通に観察される種 (鴨川・名切, 1981) のうちウグイス、ホオジロ *Emberiza cioides*、カワラヒワ *Carduelis sinica* などが男女群島では繁殖の可能性が低い種に、ヒヨドリも情報不足の種となっている。一方で、分布が限定され、五島列島では繁殖しないアカヒゲやウチヤマセンニュウは、男女群島では繁殖の可能性が示唆される結果となった。男女群島は、他の地域とは地理的に隔離されていることに加えて、地域内で生息環境の多様性が低いことや台風などによる攪乱の影響が生息地全体におよび易いことなど小面積の離島に特有の選択圧を受ける地域である。そのため、島嶼環境に適した種が優占する一方で、面積の大きな近隣島嶼では広域的に分布する種の一部が欠落し、周辺地域と比べて特異な繁殖鳥類群集が生じたと推測される。また、男女群島で繁殖するオオミズナギドリ、ウミネコ、カンムリウミスズメの 3 種は主に営巣のためだけに陸地を利用する海鳥で、小面積の離島で繁殖することが多く、これらの種が含まれることも、男女群島の繁殖種の構成を特徴付ける要因となっている。

(2) 男女群島を経由する渡り鳥

過去の調査は気象条件が穏やかで、男女群島への上陸が比較的容易な春期に集中していた (Table1, 2)。そのため、春期に男女群島を経由する種については、比較的多くの記録が得られている。男女群島で記録された 179 種のうち、前述の繁殖の可能性のある 18 種 (情報不足を含む) と、冬期に記録されて越冬の可能性のある 5 種 (ジョウビタキ、シロハラ、ウグイス、アオジ、アトリ) を除いた 156 種の多くは、この地域を一時的に利用する種であると考えられた。ツバメ属、セキレイ属、ツグミ科、ホオジロ属、ムクドリ属の中には、春期の調査において高い割合で記録される種が含まれており、これらの種では男女群島を経由する渡りのルートを経常的に利

用する個体がいると推測された。ただし、調査は定期的に行われているわけではなく、また、個体数についての記録も少ないため、渡りの中継地としてのこの地域の重要性を評価することは今後の課題である。

謝辞

調査にあたって、九州森林管理局、日本森林技術協会、山階鳥類研究所、五島市教育委員会、日本野鳥の会長崎県支部、環境省生物多様性センターには格段の便宜を頂いていた。小倉豪、梶田学、北脇英雄、中村輝司、遠藤晃、川路則友、溝口文男、坂梨仁彦、佐橋憲生、大谷達也、梶本卓也、後藤秀章、中西弘樹、神川建彦、仲村昇、馬田勝義、村上速雄、栗原幸則、岡部海都、廣山幸雄の各氏と海上保安庁女島灯台(当時)職員の方々には現地調査とデータのとりまとめにおいて大変お世話になった。平川浩文氏と匿名の査読者には論文の改訂に際して詳細なご指摘を頂いた。この場を借りて御礼申し上げる。

引用文献

- 市田則孝 (1978) 男女群島, 日本野鳥の会編 “昭和 52 年度特定鳥類調査”, 環境庁, 103-131.
- 柿田周造 (1973) 男女群島の鳥類, 長崎県生物学会編 “男女群島の生物”, 長崎県生物学会, 46-53.
- 鴨川 誠・名切直夫 (1981) 五島列島の鳥類, 長崎県生物学会編 “五島の生物”, 長崎県生物学会, 161-192.
- 北脇英雄 (1988) 男女群島鳥類調査報告, 日本野鳥の会北九州支部研究部報, 1, 3-13.
- 北脇英雄・西川和夫・樋口行雄・花輪伸一・市田則孝・岩崎弘倫 (1981) 男女群島におけるアカヒゲの生息状況調査, 日本野鳥の会編 “昭和 55 年度特殊鳥類調査”, 環境庁, 31-43.
- 北脇英雄・西田 智・森本嘉人・岡田 徹・山田 覚・山本 茂 (1989) 男女群島におけるアカヒゲの生息状況調査, 日本野鳥の会編 “昭和 63 年度特殊鳥類調査”, 環境庁, 1-30.
- 九州森林管理局 (2010) 平成 21 年度男女群島植物群落保護林モニタリング調査委託事業調査報告書, 九州森林管理局, 129pp.
- 日本鳥学会 (1974) 日本鳥類目録改訂第 5 版, 学習研究社, 484pp.
- 日本鳥学会 (2000) 日本鳥類目録改訂第 6 版, 日本鳥学会, 345pp.
- 日本産鳥類記録委員会 (2003) 日本産鳥類記録リスト (3), 日鳥学誌, 52, 126-135.
- 西村暉希 (1973) 男女群島の地形、地質及び気象, 長崎県生物学会編 “男女群島の生物”, 長崎県生物学会, 5-21.
- 関 伸一 (2006) 男女群島における春季の鳥類相, 九州森林研究, 59, 192-193.
- 関 伸一 (2009) 男女群島におけるアカヒゲ *Erithacus komadori* の生息状況と集団の分子系統的位相, 日鳥学誌, 58, 18-27.
- 外山三郎・堀川芳雄・吉岡邦二・伊藤秀三 (1968) 男女群島の植生, 長崎県教育委員会編 “男女群島特別調報告”, 長崎県教育委員会, 34-58.
- 植田睦之・島田泰夫・有澤雄三・樋口広芳 (2009) 気象レーダー「ウィンドプロファイラ」により明らかになった全国的な渡り鳥の移動状況, *Bird Research*, 5, A9-A18.
- 山口鉄男・江島正郎 (1973) 男女群島の概観, 長崎県生物学会編 “男女群島の生物”, 長崎県生物学会, 1-4.

Table 1. 男女群島でこれまでに行われた鳥類調査の詳細
Avian surveys conducted in the Danjo Islands.

季節	参照記号	調査期間	対象地域	調査実施グループ	調査者	文献
Season	Code	Study period	Study area	Core Organization	Observers	References
春	1970	1970.4.28-5.4	M	北九州野鳥の会	北脇英雄・西田智・日浦健次・藤田茂明・岩瀨三千昭・岡本久人・森本義人・吉岡洋・伊藤謙次	b
Spring	1971	1971.4.30-5.3	OM	北九州野鳥の会	北脇英雄・藤田茂明ほか	a, c
	1972a	1972.5.2-5.5	M	北九州野鳥の会	藤田茂明ほか	a, c
	1975	1975.4.30-5.4	M	北九州野鳥の会	藤田茂明ほか	a, c
	1980	1980.5.21-5.25	OM	日本野鳥の会	北脇英雄・西川和夫・樋口行雄・花輪伸一・市田則孝・岩崎弘倫	e
	1982	1982.4.29-5.3	N/S	日本野鳥の会九州ブロック	北脇英雄ほか	c
	1987	1987.4.29-5.3	M	日本野鳥の会北九州支部	北脇英雄・藤田茂明	c
	1988	1988.4.30-5.2	M	日本野鳥の会	北脇英雄・西田智・森本義人・岡田徹・山田覚・山本茂	d
	2001	2001.5.4-5.5	M	日本野鳥の会長崎県支部	馬田勝義ほか	l
	2002	2002.5.3-5.5	M	日本野鳥の会長崎県支部	執行利博・山口雅生・谷口秀樹・福田治男・今里順一郎・相原由美・山口一三・奥村英二・時津良治・寺島正彦	l
	2003	2003.5.2-5.4	M	日本野鳥の会長崎県支部	執行利博・山口雅生・谷口秀樹・相原由美・上里未央子・山口一三・奥村英二・関伸一ほか	j, k, l
	2004	2004.5.1-5.5	M	日本野鳥の会長崎県支部	執行利博・鴨川誠・山口雅生・今里順一郎・執行晃一・上田豊彦・小倉豪・関伸一・ほか	j, k, l
	2005	2005.5.2-5.3	O	森林総合研究所	関伸一・遠藤晃	j, k
	2006a	2006.5.5-5.7	OM	森林総合研究所	関伸一・梶田学・小倉豪・川路明友・溝口文男・坂梨仁彦・佐橋憲生・梶本卓也・大谷達也・後藤秀章	k, this study
	2006b	2006.5.27-28	M	森林総合研究所	関伸一	k, this study
夏	1967	1967.7.30-8.1	OM	長崎県教育委員会	古賀正夫ほか	g
Summer	1972b	1972.8.4-8.9	OM	長崎県生物学会	柿田周造ほか	f
	1977	1977.8.10-8.11	OKYHM	日本野鳥の会	市田則孝ほか	a
	2010	2010.6.7-9	OM	九州森林管理局	中村輝司・中西弘樹・神川建彦・関伸一ほか	this study
秋	1986	1986 Sep (N/S)	M	長崎県生物学会	中西弘樹・江島正郎ほか	i
Fall	2008	2008.10.20-10.22	O	山階鳥類研究所	仲村昇・馬田勝義・村上速雄・栗原幸則・岡部海都・関伸一	m, this study
冬	2009	2009.12.2-12.4	OM	九州森林管理局	中村輝司・中西弘樹・神川建彦 (録音データ解析：関伸一)	h, this study

Winter
 O: 男島 O-shima; K: クロキ島 Kuroki-jima; Y: 奇島 Yori-shima; H: ハナグリ島 Hanaguri-jima; M: 女島 Me-shima
 N/S: 調査期間または対象地域不明. Study period or study area not specified.

a 市田則孝 (1978) 男女群島, 日本野鳥の会編 "昭和 52 年度特定鳥類調査", 環境庁, 103-131.
 b 北九州野鳥の会 (1971) 男女群島鳥類調査報告書, 北九州野鳥の会, 61pp.
 c 北脇英雄 (1988) 男女群島鳥類調査報告, 日本野鳥の会北九州支部研究部報, 1, 3-13.
 d 北脇英雄・西田智・森本義人・岡田徹・山田覚・山本茂 (1989) 男女群島におけるアカヒゲの生息状況調査, 日本野鳥の会編 "昭和 63 年度特殊鳥類調査", 環境庁, 1-30.
 e 北脇英雄・西川和夫・樋口行雄・花輪伸一・市田則孝・岩崎弘倫 (1981) 男女群島におけるアカヒゲの生息状況調査, 日本野鳥の会編 "昭和 55 年度特殊鳥類調査", 環境庁, 29-44.
 f 柿田周造 (1973) 男女群島の鳥類, 長崎県生物学会編 "男女群島の生物", 長崎県生物学会, 46-53.
 g 加藤隆雄・森田真一・山口鉄男・賀古正夫 (1968) 男女群島の動物, 長崎県教育委員会編 "長崎県教育委員会, 59-97.
 h 九州森林管理局 (2010) 平成 21 年度男女群島植物群落保護調査報告書, 九州森林管理局, 129pp.
 i 中西弘樹・江島正郎 (1989) 男女群島の生物, 長崎県生物学会編 "長崎県の生物", 長崎県生物学会, 299-304.
 j 関伸一 (2006) 男女群島における春季の鳥類相, 九州森林研究, 59, 192-193.
 k 関伸一 (2009) 男女群島におけるアカヒゲ *Erithacus komadori* の生息状況と集団の分子系統的位置, 日本鳥学会誌, 58, 18-27.
 l 山口雅生・執行晃一・上田豊彦 (2004) 04 男女群島鳥類調査報告, つばさ, 219, 2-8.
 m 山階鳥類研究所編 (印刷中) 平成 19 年度重要生態系監視地域モニタリング推進事業 (モニタリング 1000) 海鳥調査業務報告書, 環境省.

Table 2. 男女群島鳥類記録リスト
List of avian records in the Danjo Islands.

種名 Species	春季 Spring										夏季 Summer			秋期 Fall		冬期 Winter		備考 notes							
	1970	1971	1972a	1975	1980	1982	1987	1988	2001	2002	2003	2004	2005	2006a	2006b	1967	1972b		1977	2010	1986	2008	2009		
オオハム				M																					
<i>Gavia arctica</i>																									
カンムリカイアシドリ																									
<i>Podiceps cristatus</i>																									
オオミズナギドリ	M*	N/S	M	M	OM*	N/S	M*	M*	M	M*	M	M	O*	OM*	M	OM*	OM* OKYHM*	OM*	OM*	O*			O		
<i>Colony nelsoni</i>																									
カツオドリ	M	N/S	M	M	M	N/S	M	M	M	M	M	M	O	O		OMHY	Y	OMY	OMY	O	O			O	
<i>Sula leucogaster</i>																									
ウミウ	M	N/S	M	M	M	N/S	M	M	M	M	M	M													
<i>Phalacrocorax capillatus</i>																									
ヒメウ	M																								
<i>Phalacrocorax pelagicus</i>																									
オオヨシゴイ																									
<i>Icthyophaga eurhynchus</i>																									
リュウキュウヨシゴイ	M																								
<i>Icthyophaga cinnamomeus</i>																									
タカサゴクロサギ	M																								
<i>Icthyophaga flavicollis</i>																									
ミソゴイ																									
<i>Gorsachius gotsagi</i>																									
ゴイサギ	M	N/S	M	M	M	N/S	M	M	M	M	M	M													
<i>Nycticorax nycticorax</i>																									
ササゴイ	M	N/S	M	M	M	N/S	M	M	M	M	M	M	O	O											
<i>Butorides striatus</i>																									
アカガシラサギ	M	N/S	M	M	M	N/S	M	M	M	M	M	M	O	OM	M										
<i>Ardeola bacchus</i>																									
アマサギ	M	N/S	M	M	M	N/S	M	M	M	M	M	M	O	OM	M										
<i>Bubulcus ibis</i>																									
ダイサギ	M	N/S	M	M	M	N/S	M	M	M	M	M	M													
<i>Egretta alba</i>																									
チュウサギ	M	N/S	M	M	M	N/S	M	M	M	M	M	M	O	OM	M										
<i>Egretta intermedia</i>																									
コサギ	M	N/S	M	M	M	N/S	M	M	M	M	M	M													
<i>Egretta garzetta</i>																									
アカシラサギ	M																								
<i>Egretta eulophotes</i>																									
クロサギ	M																								
<i>Egretta sacra</i>																									
アオサギ																									
<i>Ardea cinerea</i>																									
ムラサキサギ																									
<i>Ardea purpurea</i>																									
カルガモ																									
<i>Anas poecilorhyncha</i>																									
コガモ																									
<i>Anas crecca</i>																									
ミサゴ	M*	N/S	M	M	OM	N/S	M*	M	M	M	M	M	O	OM	M										
<i>Panthon haliaetus</i>																									
ハチクマ	N/S																								
<i>Pernis ptilorhynchus</i>																									
トビ	M	N/S	M	M	M	N/S	M	M	M	M	M	M													
<i>Milvus migrans</i>																									
オジロフシ																									
<i>Haliaeetus albicilla</i>																									
オオタカ	M	N/S	M	M	M																				
<i>Accipiter gentilis</i>																									
アカハラダカ	M	N/S	M	M	M																				
<i>Accipiter soloensis</i>																									
ツミ																									
<i>Accipiter gularis</i>																									
ハイタカ	M																								
<i>Accipiter nisus</i>																									
ノスリ																									
<i>Buteo buteo</i>																									
サシバ	M	N/S	M	M	M																				
<i>Buteo indicus</i>																									
マダラチュウヒ	M																								
<i>Circus melanoleucos</i>																									
ハヤブサ	M																								
<i>Falco peregrinus</i>																									
チヨウヤブサ	M																								
<i>Falco subbuteo</i>																									
チヨウガンボウ	M																								
<i>Falco tinnunculus</i>																									
シロハラクワイナ	M																								
<i>Amurornis phoeniceus</i>																									
ハシ	N/S																								
<i>Gallinula chloropus</i>																									
コサドリ	M																								
<i>Charadrius dubius</i>																									

O: 男島 Oshima; K: ク

Table 2. 男女群島鳥類記録リスト
List of avian records in the Danjo Islands.

種名 Species	春季 Spring										夏季 Summer				秋期 Fall		冬期 Winter		備考 notes					
	1970	1971	1972a	1975	1980	1982	1987	1988	2001	2002	2003	2004	2005	2006a	2006b	1967	1972b	1977		2010	1986	2008	2009	
シロチドリ		N/S	M			N/S	M																	
メダイチドリ		N/S	M	M		N/S	M	M																
オオメダイチドリ		N/S	M			N/S	M																	
ムナグロ		M	M	M		N/S	M	M	M								M							
ダイゼン			M			N/S																		
キョウジョシギ		M				N/S	M																	
トウネン		M	M	M		N/S	M	M																
ウスラシギ		N/S	M	M		N/S																		
コオハシギ			M			N/S																		
ミユビシギ						N/S																		
アカアシシギ						N/S		M																
アオアシシギ		N/S	M			N/S	M																	
クサシギ			M			N/S		M																
タカアシギ		M	M	M		N/S	M	M	M															
キアシシギ		M	M	M		N/S	M	M	M															
イソシギ		M	M	M		N/S	M	M	M								M							
ソリハシシギ		M	M	M		N/S	M																	
オグロシギ		N/S				N/S																		
赤ウロクシギ		N/S				N/S		M																
チュウソウシギ		M	M	M		N/S	M	M	M															
コシヤウシギ		M				N/S																		
ヤマシギ						N/S																		
タシギ		M				N/S	M																	
ツバメチドリ		M				N/S	M																	
セグロカモメ		M				N/S	M																	
ウミネコ		M*	M	M		OM	N/S	M*	M	M	M	M	O	OM	M								OM*	
ミツユビカモメ																								
アジサシ																								
カンムリウミスズメ		M				N/S																		
カラフト		M				N/S	M	M	M	M	M	M	O	OM	M									
ベニハト		M	M	M		OM	N/S	M	M	M	M	M	O	OM	M									
キジハト		M				N/S	M																	
ジュウイチ																								
ツツドリ		N/S																						
ホトトギス																								
カンムリカワウ																								
コノハズク																								
アオハズク																								
ヨタカ		M																						
ハリオアマツバメ																								
ヒメアマツバメ		M																						
アマツバメ		M	M	M		N/S	M	M	M	M	M	M	O	OM	M									

O: 男島, O-shima; K: クロトキ鳥, Kuroki-jima; Y: 高島, Yori-shima; H: ハナグロ鳥, Hanaguri-jima; M: 女島, Me-shima; N/S: 観察も不明, Observed location not specified.
*: 繁殖記録あり, Nesting records; †: 関連報告書に記載あり, Records found in related research report.

Table 2. 男女群鳥類記録リスト
List of avian records in the Danjo Islands.

種名 Species	春季 Spring										夏季 Summer			秋期 Fall		冬期 Winter		備考 notes					
	1970	1971	1972a	1975	1980	1982	1987	1988	2001	2002	2003	2004	2005	2006a	2006b	1967	1972b		1977	2010	1986	2008	2009
ヤマシヨウビン <i>Halcyon pileata</i>			M				M	M	M	M													
アカシヨウビン <i>Halcyon coromanda</i>							M	M	M	M													
カワセミ <i>Alcedo atthis</i>	M	N/S	M	M	N/S	M	M	M	M														
アツボウソウ <i>Eurostomus orientalis</i>					N/S									M									
ヤッコウソウ <i>Upupa epops</i>	M				N/S																		
ヒメコウテンシ <i>Calandrella cinerea</i>					N/S					M													
ヒバリ <i>Alauda arvensis</i>																							
ハマヒバリ <i>Eremophila alpestris</i>				M																			
シヨウドウツバメ <i>Riparia riparia</i>			M	M	N/S	M	M	M	M	M	M	M	O	OM	M								
ツバメ <i>Hirundo rustica</i>																							
リュウキユウツバメ <i>Hirundo tahitica</i>	M																						
コシアカツバメ <i>Hirundo daurica</i>	M	N/S	M	M	N/S	M	M	M	M	M	M												
イワツバメ <i>Delichon urbica</i>	M	N/S	M	M		M	M	M	M				OM										
イワミセキレイ <i>Dendroanthus indicus</i>	M	N/S	M	M	N/S	M	M	M	M														
ツメナガセキレイ <i>Motacilla flava</i>	M	N/S	M	M	N/S	M	M	M	M	M	M												
キガシラセキレイ <i>Motacilla citreola</i>	M	N/S			N/S		M																
キセキレイ <i>Motacilla cinerea</i>	M	N/S	M	M	N/S	M	M	M	M	M	M	O	OM	M									
ハクセキレイ <i>Motacilla alba</i>	M	N/S	M	M	N/S	M	M	M	M	M	M		OM										
マミジロタヒバリ <i>Anthus novaezelandiae</i>	M			M	N/S	M																	
ビンズイ <i>Anthus hodgsoni</i>	M	N/S	M	M	N/S	M																	
ムネアカタヒバリ <i>Anthus cervinus</i>	M	N/S	M	M	N/S	M	M	M	M	M	M												
タヒバリ <i>Anthus spinoletta</i>	M	N/S	M	M	N/S	M	M	M	M														
サンショウクイ <i>Percnecetus divaricatus</i>	M	N/S	M	M	N/S	M	M	M	M	M	M	O	OM	M									
ヒヨドリ <i>Hypsipetes amaurotis</i>	M			M																			
チゴモズ <i>Lanius tigrinus</i>																							
モズ <i>Lanius bucephalus</i>																							
アカモズ <i>Lanius cristatus</i>	M			M	M	N/S	M	M															
ヒレンジャク <i>Bombus japonica</i>				M																			
ミノカササギ <i>Troglodytes troglodytes</i>					N/S																		
コマドリ <i>Eriothacus akahige</i>				M																			
アカヒゲ <i>Eriothacus komadori</i>																							
シマゴマ <i>Luscinia sibilans</i>																							
ノゴマ <i>Luscinia calliope</i>																							
コルリ <i>Luscinia cyane</i>																							
ルリビタキ <i>Tarsiger cyanurus</i>																							

春期に亜種アカハラツバメ *H. r. saturata* およびツバメ *H. r. saturata* が記録されている。 *H. r. saturata* and *H. r. saturata* have been reported in most of the spring surveys.

春期に亜種シベリアツメナガセキレイ *M. f. plexa*, マミジロツメナガセキレイ *M. f. similina*, ツメナガセキレイ *M. f. cinerea*, およびキタツメナガセキレイ *M. f. macronyx* が記録されている。 *M. f. plexa*, *M. f. similina*, *M. f. cinerea*, and *M. f. macronyx* have been reported in some of the spring surveys.

春期に亜種シベリアアカモズ *M. a. baicalensis*, タイワンアカモズ *M. a. acularis*, ハクセキレイ *M. a. lugens* およびオオシロハクセキレイ *M. a. leucopsis* が記録されている。 *M. a. baicalensis*, *M. a. acularis*, *M. a. lugens*, and *M. a. leucopsis* have been reported in some of the spring surveys.

2回の調査では亜種シマゴマ *L. c. lucionensis* を含むことが確認されている。 *L. c. lucionensis* has been reported in two of the surveys.

O: 男島 O-shima, K: クロキキ島 Kuroki-jima, Y: 常島 Yonishima, H: ハナタリ島 Hanaguri-jima, M: 女島 Me-shima, N/S: 観察地不明, Observed location not specified.
*: 繁殖記録あり, Nesting records; †: 関連報告書に記載あり, Records found in related research report.

Table 2. 男女群島鳥類記録リスト
List of avian records in the Danjo Islands.

種名 Species	春季 Spring										夏季 Summer			秋期 Fall		冬期 Winter		備考 notes							
	1970	1971	1972a	1975	1980	1982	1987	1988	2001	2002	2003	2004	2005	2006a	2006b	1967	1972b		1977	2010	1986	2008	2009		
ミヤマホオジロ <i>Emberiza elegans</i>	M	M	M	M	N/S	M	M																		
シマアオジ <i>Emberiza aureola</i>	M	N/S	M	M	N/S	M	M	M	M																
シマノジロ <i>Emberiza rutila</i>	M	N/S	M	M	N/S	M	M	M																	
ノジロ <i>Emberiza sulphurata</i>	M	N/S	M	M	N/S	M	M	M	M	M	M	M	M	OM											
アオジ <i>Emberiza spodocephala</i>	M	N/S	M	M	M	N/S	M	M	M	M	M	M	M	OM									M		
クロジ <i>Emberiza variabilis</i>				M																					
アトリ <i>Fringilla montifringilla</i>	M						M	M	M																
カワラヒワ <i>Cantuaelis sinica</i>	M							M																	
マヒワ <i>Cantuaelis spinus</i>		N/S	M				M		M																
コイカル <i>Eophona migratoria</i>							M																		
イカル <i>Eophona personata</i>				M			M																		
シメ <i>Coccothraustes coccothraustes</i>									M																
スズメ <i>Passer montanus</i>	M	N/S	M	M	N/S	M	M	M	M																
ギンムクドリ <i>Sturnus sericeus</i>							M		M																
コムクドリ <i>Sturnus philippensis</i>	M	N/S	M	M	N/S	M	M	M	M	M	M	M	O												
カラムクドリ <i>Sturnus sinensis</i>									M																
ムクドリ <i>Sturnus cineraceus</i>	M			M	N/S	M	M	M	M	M															
コウライオウガイイス <i>Oriolus chinensis</i>														M										M	
オウチユウ <i>Dicurus macrocerus</i>																									
カサカギ <i>Pica pica</i>																									
ハシボソガラス <i>Corvus corone</i>																									
ハシトガラス <i>Corvus macrorhynchos</i>	M	N/S	M	M	OM	N/S	M	M	M	M	M	M	O	OM	M	OM	OM	OKM	OM						

O: 男島 Oshima; K: クロキ島 Kuroki-jima; Y: 富島 Yonai-jima; H: ハナグサ島 Hanagusa-jima; M: 女島 Me-shima; N/S: 観察地不明. Observed location not specified.
*: 繁殖記録あり, Nesting records; †: 関連報告書に記載あり, Records found in related research report.